

注目

今月の登場は、大本憲一さんです。
9月3日、市政モニターの皆さんが島地部視察として、真鍋島と北木島を訪れました。大本さんは、その笠岡諸島での島おこしに注目しました。

島おこしから新島いっしょ〜誇りあるまちづくりを

今期のモニター活動の中に、全三回の島地部視察活動がありまして、先日、事前勉強会を行った後、第一回目の島地部視察を行ってきました。

事前勉強会では…

事前勉強会においては、協働のまちづくり課（海援隊グループ）職員からこれまでの経緯と現状の説明を伺いました。

市政としての笠岡諸島における役割のあり方として、平成六年度のまちづくり支援事業での笠岡諸島の島おこしに始まり、平成九年の「島をゲ

ンキにする会」発足、平成十三年の「島おこし海援隊」の組織、そして現在は島地部においては「電脳笠岡ふるさ島づくり海社」なる団体（NPO法人申請中）による各島の自立と連携が図られていることを教えていただきました。

二島の島おこし

島地部視察当日は、真鍋島と北木島にお邪魔させていただきました。

最初に訪れた真鍋島では島おこしグループ「パワフル」の方からお話をお聞きしました。真鍋島では大変な少子高

齢過疎化に直面し、この現状を打破するため、また自分たちが生まれ・住み・育ったこの島のためにさまざまな取り組みをされています。

その中でも、島の人たちをつなぐために発行している「まなべしま新聞」は、島外の人たちからも愛され待ち望まれていることを知りました。



次に、昼からは北木島を訪問。「電脳笠岡ふるさ島づくり海社」の方から北木島の話を聞きしました。そこには現在、島の人たちによる島のための活動が展開されており、自立と自治の原点があるように感じました。まだまだ沢山のことを両名の方より教えていただきました。

だが、誠に申し訳ございません。紙面の都合上全てをご紹介できないことお詫び申し上げます。

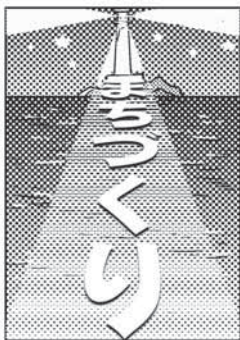
今回二島を訪問し、そこに住んでいる人と市政とのパートナーシップによる協働が多く見られたように感じました。また、一島だけでなく笠岡諸島がつながりあって、ひとつとなつて相互の協力が図られていることも感じました。ただ一番感じたことは、自分たちの島は自分たちの手によって創り上げていく、将来の島を想い、理想を描き、その実現に向けてみんなが手を取り協力しあつて、行動している姿がよくわかりました。

島おこしから新島いっしょへ

今、島地部に限らず、私たちのまちに関わるさまざまな活動をされている人が多くいると思います。団体も個人も、どしどし自分たちのまちのた

めに立ち上がり、自分たちのまちに少しでも素敵な魅力を感じ、自分たちのまちに誇りをもって暮らしていけるようにしていかなければならないと感じます。一人ひとりの力は微力かと思いますが、自分たちのまちを想う気持ちがつながりあって、ひとつの大きな力となり、自分たちのまちの将来を創っていくものと思います。

海援隊などで試みた住民と行政の協働を、今後は笠岡のまち全体に拡げていって、我がまち「かさおか」のために活かしていただきたいと思います。思いますし、我々住民も、自分たちのまちのために行動していきたいと思います！



このページのご意見・ご感想をお待ちしています。また、「市政についての質問・提言」などがあれば併せてどうぞ。

お便り…〒七一四一八六〇一 笠岡市中央町一一一

企画政策課モニター係

TEL 082-2114 FAX 082-22288